

角川総一流

マーケットの読み方



データを時系列で記録し続ければ
マーケットセンスは劇的に変わる

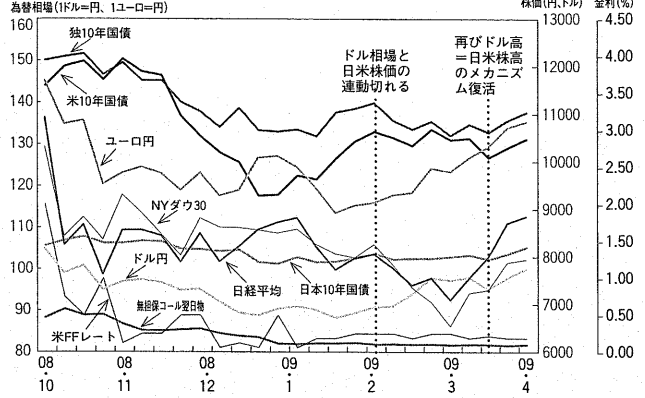
3

月からは再び「米国株高」
↓「マネーのリスク許容度復活」
↓「円からドル・ユーロへ資金のシフト」というサブプライム問題表面化以前に観察されたマネーの流れとなりました。さらには日米ともに「株高」↓「長期金利上昇」というマーケットメカニズムの原則通りの動きに戻っています(図表1)。
さて4月上旬まで1ヵ月近くはわたって続いていた「米株高」「日本株高」「ドル高・ユーロ高・円安」「日米欧の長期金利上昇」というトレンドは、調整局面に入

毎日新聞を眺めるだけでは マーケットは読めない

実は、毎日、新聞紙上で円ドル相場や日経平均株価、あるいは米国の10年国債利回りなどを念入り

図表1 内外の為替と株、金利の推移 (2009年4月3日現在)



るのです。さてそのためには？
もちろん罫線用紙を買い求めて
自作してもいいですし、あるいは
エクセルを用いて自分でこの手の
表を作成してもいいのですが、ま
ずは出来合いのフォーマットをお
使いになることをお勧めします。
「ペーパー」へ行けばそんなものを

売っているの？」
「知るぼろ」とのシートを
印刷し、新聞のデータを転記
まずは金融広報中央委員会とい
う非営利団体が開設している「知
るぼろ」(<http://www.shinbun.jp>)というサイトに入りま
す。その後の手順は以下の通りで
す。
左上の「金融と経済のしくみ」
をクリック↓左上から4つ目の
「経済と経営のデータに強くなる
う」をクリック↓「金融指標の見
方」をクリック↓一番下の「エビ
ディング(金融関連に慣れるための
シート)」をクリック。
ここまでくればしめたもの。
「PDFファイル」と「エクセル
ファイル」の2通りのシートが用
意されていますので、これを保
存、あるいは開けば図表2のよう
なシートが現われるという仕掛け
(?)なのです。
そこで、ここにある諸項目の中
で自分にとって有用だと思われる
項目だけで結構ですから、新聞紙
上から数字データを転記するの

にチェックしていても、それで終
わってしまったらいいのならあまり
仕事の役には立たないのです。な
ぜなら、毎日こまめにこれらのデ
ータを見たとしても、頭の中でこ
れらのデータを連続した流れとし
て意識することは至難の技だから
です。
簡単に言いましたら、例えば
日経新聞で月曜日から金曜日まで
(正確には火曜日の朝刊から土曜
日の夕刊まで)にわたり、「日経
平均株価」「円ドル相場」「10年長
期国債利回り」をチェックしてい
ったとして、「日経平均が880
0円を超えるところまで上昇して
くる過程ではドルは総じて円に対
して強く、101円台まで上げた
(同時に長期国債10年物も1・4
75%まで上昇している)」とい
うようにデータ相互間の関係を認
識することはとても難しいので
す。

マーケットの読み方の基本は
「流れで見る」「データ相互間の関
係が重要」の2つです。日経新聞
を毎日ただ眺めるだけでは、これ
らの基本を押えることはとても困

マーケット・サマリ
多岐にわたるためのエッセンス

3月からは再び「ドル高・円安」と「日米株高」がリンクしてきている。つまり、米国株式高↓日本から米国へ資金シフト↑円売り・ドル買いが復活してきた。

日米の積極的な財政面からの大型経済対策を素直に受け株価は上昇基調。

日米の株高が日米長期金利を引き上げるといふごく自然なメカニズムが働いている。

難なものです。ではどうすれば？
私がまず最初にお勧めしたいのは、1日に重要なマーケットデータを5つか6つでいいから、一定のフォーマットに記入していく(「続けていく」ということなのです。これによって初めて以上のようなマーケットデータを流れてみてみることで、異なるデータ(たとえば円ドル相場と日経平均株価)の関係を辿ることができ

図表2 金融関連に慣れるためのシート

	国内金利		米国金利		公共経済データなど特記事項
	無担保	長期国債	FFレート	米財務証券	
	コール翌日物	10年	10年	10年	
	%	%	%	%	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					

す。難しいことでは決してありません。騙されたと思ってぜひ毎日、少なくとも1ヵ月間はお続けください。
1ヵ月後におけるあなたのマーケットに対する感覚、センスは明らかに変わっているはず。それとともに、この連載でこれからお話ししていくことになるいろいろなものが見方がスツと頭の中に入ってくるはず。
これを利用するに際しては2つだけちょっとした工夫をしてください。
1つ。右端の欄にはその日のマーケットに重大な影響を与えるに至ったニュースなどを記します。もちろん景気関連データの発表などを含みます。
2つ。各数値データについて、

- 一、4月中旬からは米国の金融機関の決算発表が相次ぐことに要注意
- 二、米雇用指標がやや好転してきたことや、時価会計の見直して米金融機関の損失が当面圧縮されることなどが好感され株高に振れているが、肝心の住宅・不動産関連指標には好転の動きなく一部に行き過ぎ感もあり
- 三、日米の中央銀行は長期金利の上昇抑制に意欲。このまま上昇を続ければ景気には着実に悪影響を及ぼすため